

Honjo City Regional Public Transportation Plan 2023



本庄市 地域公共交通計画 2023

概要版

令和5年(2023年)3月



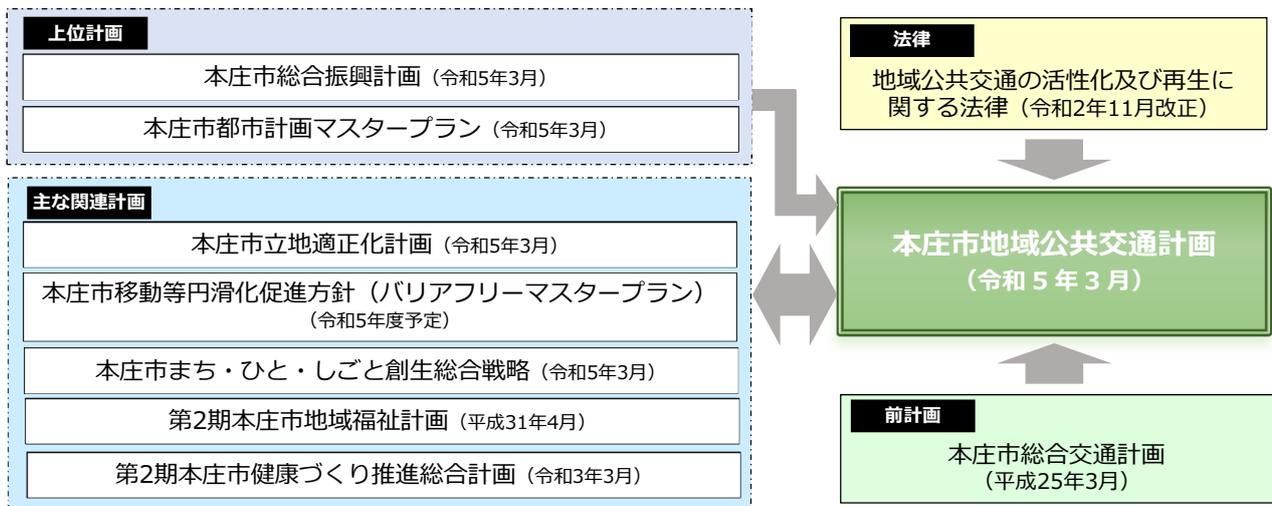
基本事項

● 計画の背景と目的

近年、人口減少や高齢化の急速な進行等の社会問題が深刻化していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により生活環境が変化しています。公共交通においては、利用者の減少や運転手等の担い手不足が大きな課題となっている一方で、運転免許証を返納した高齢者の増加や交通弱者への対応等、その需要は増加していくことから、将来にわたって利便性の高い公共交通の維持や確保が求められています。

こうした背景を踏まえ、誰もが公共交通を利用しやすく、将来にわたり持続可能な交通体系を維持・確保していくために、「本庄市地域公共交通計画」を策定しました。

● 計画の位置づけ



● 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間

本庄市の現状・各種意識調査結果から見た課題

● 本庄市の地域特性と公共交通の現状

①人口は減少傾向である一方、高齢化率は40%まで上昇する見通しとなっています。

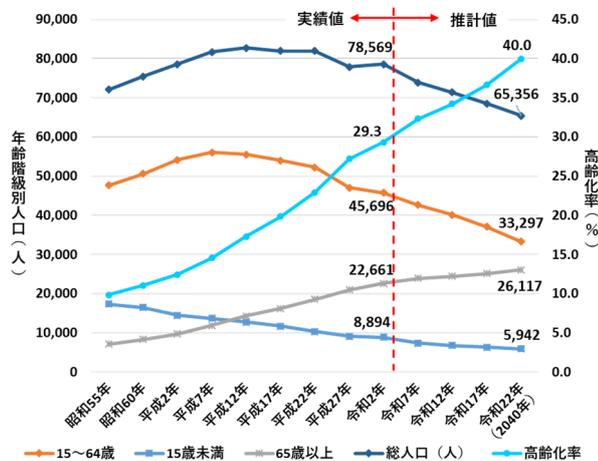


図 本庄市の人口と高齢化率の推移

出典：実績値：総務省統計局「2020年国勢調査」
推計値：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

②埼玉県の運転免許証返納者数は、平成29年度及び平成30年度に比べ、令和元年度以降、増加傾向です。

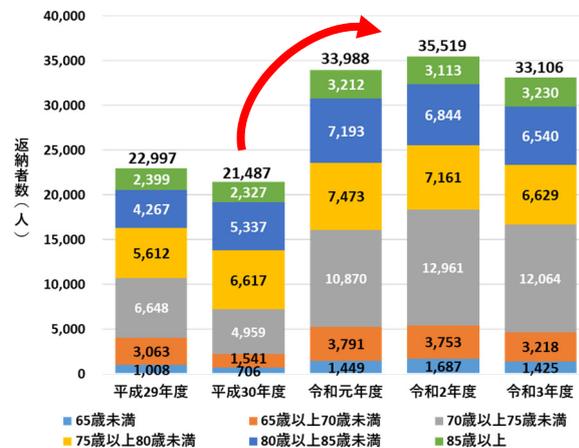


図 埼玉県の運転免許証返納者数

出典：警察庁「運転免許統計(平成29年度～令和3年度)」

③路線バスの利用者数は、増加傾向でしたが、コロナ禍により大きく減少し、令和3年度には回復傾向にあります。

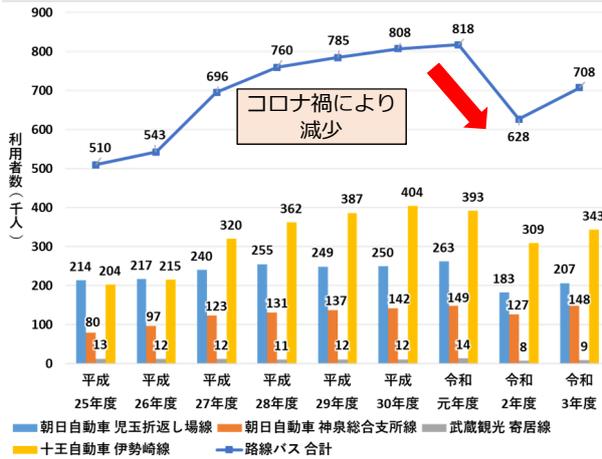


図 路線バスの利用者数

④シャトルバスの利用者数は、増加傾向でしたが、コロナ禍により大きく減少し、デマンドバスではコロナ禍によりさらに減少しています。

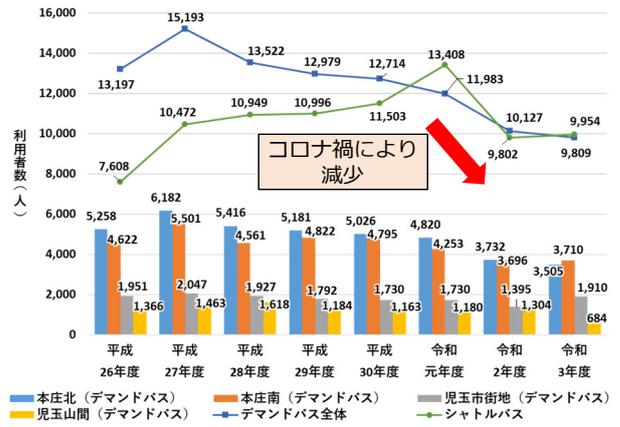


図 デマンドバス・シャトルバスの利用者数

出典：デマンドバス：本庄市「はにぼん号・もといずみ号の利用状況」
シャトルバス：本庄市「はにぼんシャトルの利用状況」

⑤デマンドバスの収支率は、全体で5.8%であり、近隣市町と比較すると低い状況です。

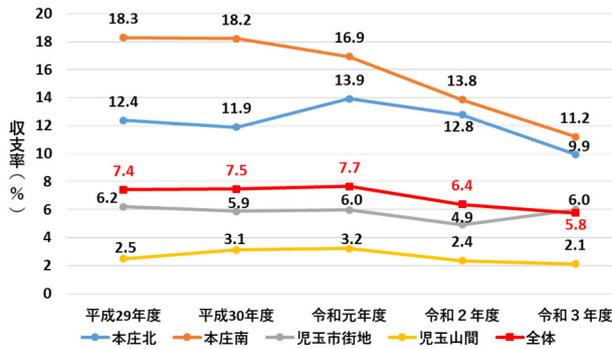


図 デマンドバスの収支率

【本庄市と近隣市町の収支率 (令和3年度)】

自治体名	収支率
本庄市	5.8%
深谷市	5.9%
寄居町	16.3%
ときがわ町	9.2%

⑥シャトルバスの収支率は、20%前後で推移しており、近隣市町と比較すると高い状況です。

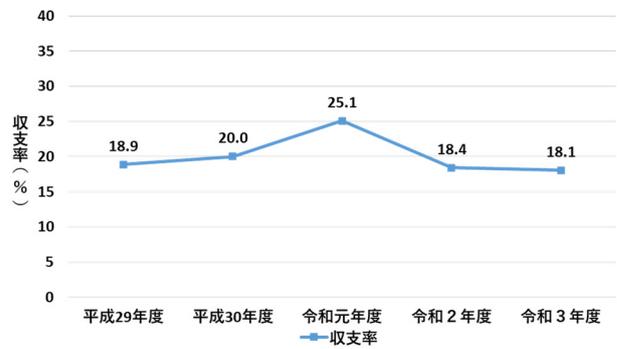


図 シャトルバスの収支率

【本庄市と近隣市町の収支率 (令和3年度)】

自治体名	収支率
本庄市	18.1%
深谷市	13.2%
皆野町	11.8%
熊谷市	20.2%

⑦デマンドバス利用日当日のキャンセル(連絡なしを含む)が多く、利用したい時間に利用ができない状況が発生しています。

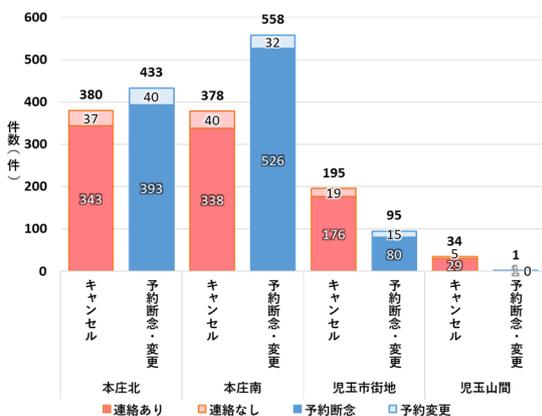


図 令和3年度の当日キャンセル数及び予約断念・利用時間の変更件数

出典：本庄市「令和4年度第1回交通政策協議会」

⑧人口カバー率は、97.2%と高く、市民のほとんどが公共交通を利用できる状況です。

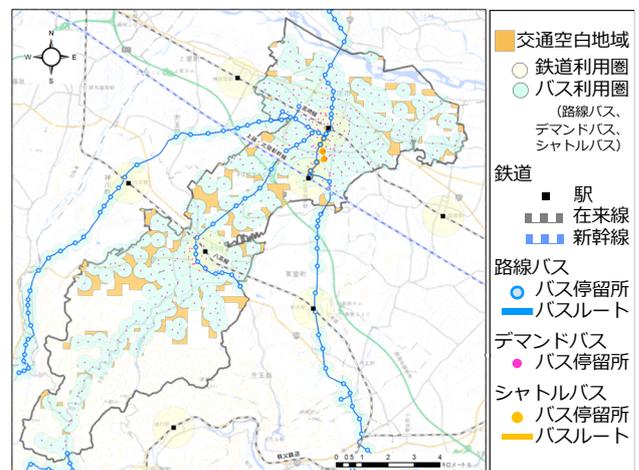


図 交通空白地域

● 各種意識調査の結果

① デマンドバスの認知度は9割弱となっており、多くの市民に認知されています。

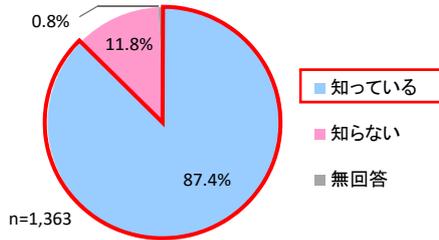


図 デマンドバスの認知度

② デマンドバスを利用したことがある方の割合は1割程度です。「80代」以上では2割以上の方が「利用したことがある」と回答しています。

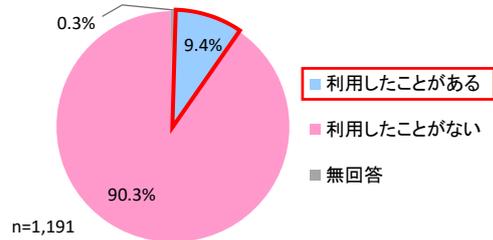


図 デマンドバスの利用有無

③ デマンドバスを利用しない理由としては、「自動車移動できるから」と回答した方が最も多くを占めています。

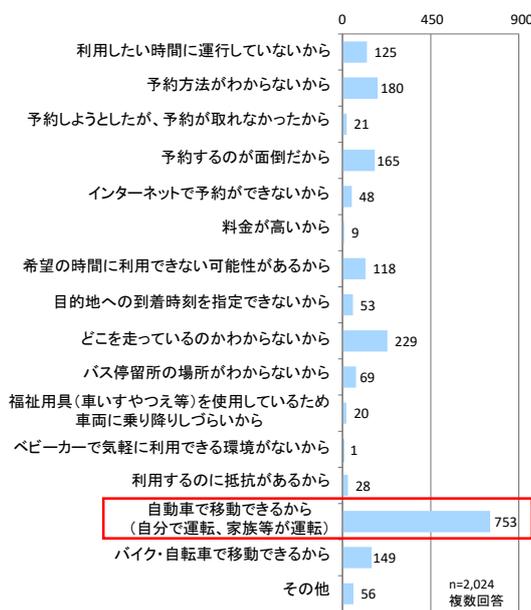
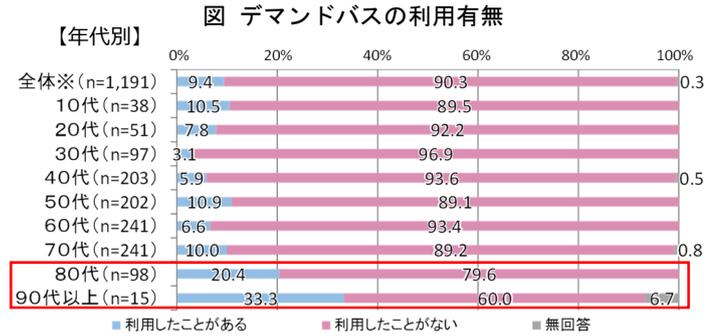


図 デマンドバスを利用しない理由



④ 市内の公共交通の充実さに満足している方より満足していない方が多くなっています。一方で、「10代」と「90代以上」では満足している割合が他の年代と比べると高くなっています。

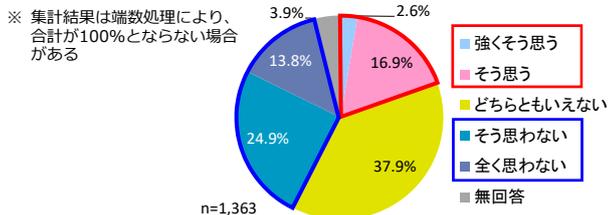


図 市内の公共交通に対する満足度

⑤ デマンドバスの不満理由として、予約に関する内容が最も多く寄せられています。

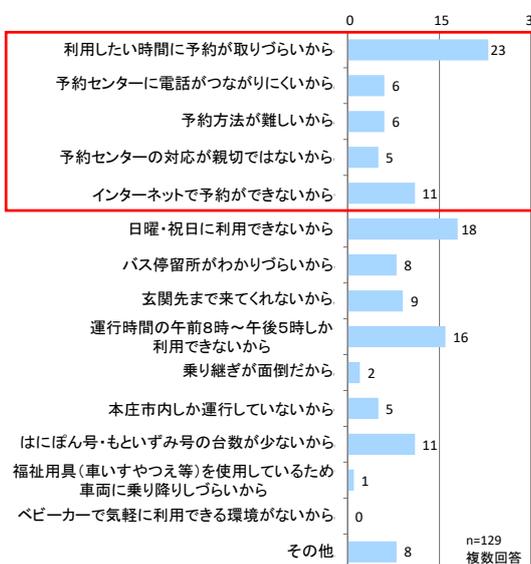
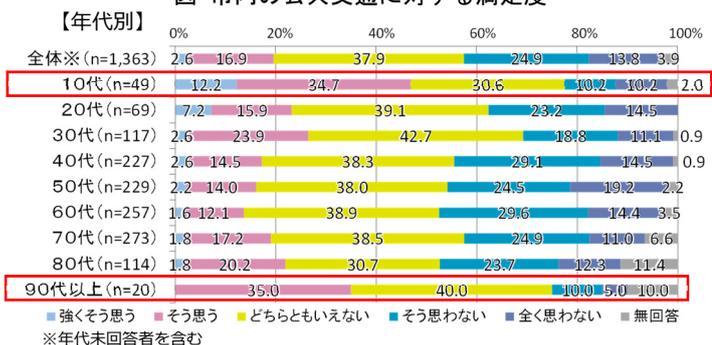


図 デマンドバスに対する不満理由



⑥ 約8割の方が公共交通をみんなで支えていかなければならないと考えています。

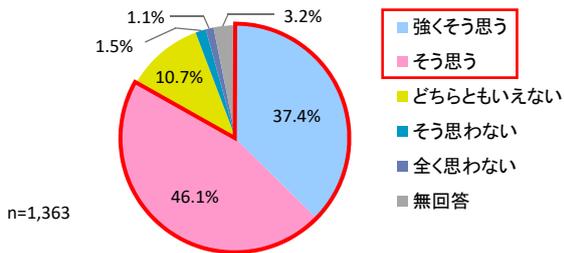


図 公共交通はみんなで支えるべきか

<現状>

<課題>

高齢化の進行	▶	高齢者の増加による公共交通の需要増加への対応 運転免許証返納後も安心して移動できる移動手段の確保、及び今後増加が見込まれる公共交通の需要への対応が求められます。
高齢者の運転免許証返納者の増加	▶	
障害者が利用しづらい公共交通の利用環境	▶	誰もが利用しやすい環境への改善 高齢者や障害者が公共交通を利用する際の不便さを解消し、上位計画における「誰もが出歩きやすいまち」の実現のために、公共交通の利用環境の改善が必要となっています。
公共交通におけるバリアフリーやユニバーサルデザインの促進	▶	
デマンドバス・シャトルバスの非効率な運行	▶	利用者ニーズに応じた効率的な運行への改善 非効率な運行や利便性に関する不満解消のため、利用者のニーズに応じた効率的な運行への改善が求められています。
利用者の利用したい時間帯と運行時間帯のミスマッチ	▶	
デマンドバスの当日キャンセルの多発	▶	デマンドバスの予約方法の改善 利用日当日の予約キャンセルが多いことにより、利用したい人が使えない状況が起きていることや、予約に関する不満が多いことから、使いたい時に使えるような利便性の高いデマンドバスへの改善が必要となっています。
デマンドバスの予約に関する不満の多さ	▶	
駅前での活力・魅力向上	▶	交通結節点の利用環境の向上 各駅の周辺において、交通結節点としての役割を果たしつつ、駅前での活力・魅力向上に向けた利用環境の向上が求められています。
自家用車利用者の増加	▶	過度な自動車への依存 自家用車から公共交通への転換を促し、将来にわたり公共交通を維持していくことが必要となっています。
公共交通利用者の減少	▶	
コロナ禍による利用者減少の見込み	▶	コロナ禍による公共交通の回復見通しの不透明さ コロナ禍により生活様式が変化していく中で、公共交通を維持・確保していくことが求められています。
市の歳入額の減少	▶	歳入額の減少及び各公共交通の収支率低下 公共交通に関する市の財政負担を軽減するためにも、現状の収支率を改善していくことが必要となっています。
公共交通利用者の減少による収支率の低下	▶	
デマンドバスの利用に関する情報の周知不足	▶	デマンドバス・シャトルバスの周知及び情報提供の不足 デマンドバス及びシャトルバスの利用促進に向け、サービス内容の継続的な周知・情報提供が必要となっています。
シャトルバスの認知度の低さ	▶	

■ 上位・関連計画により示されている方針等	■ 各種意識調査の結果
■ 本庄市の地域特性・公共交通の現状	

基本理念・基本方針、目標

●基本理念・基本方針

上位計画である「本庄市総合振興計画」において、交通サービス分野のめざす姿として「誰もが出歩きやすいまち」を設定しています。上位・関連計画における将来像の実現と、本市の現況及び各種意識調査結果から出た課題の解決に向け、基本理念を“誰もが安心して快適に公共交通を利用できるまち”とし、今ある鉄道、路線バス、デマンドバス、シャトルバス、タクシーなどの交通資源を最大限に活用し、誰もが安心して移動できるまちを目指します。この基本理念に基づき、課題を解決するための2つの基本方針を定めました。

基本理念「誰もが安心して快適に公共交通を利用できるまち」

基本方針①：安全・安心でより利便性の高い公共交通サービスの提供

本市では、ほとんどの地域で公共交通を利用できる環境にあります。一方で、各種意識調査の結果では、市民の公共交通への満足度は高くなく、運行時間や便数の不足、デマンドバスの予約の取りづらさ、障害者への対応等の課題が明確となっています。利用者にとって、安全・安心でより利便性の高い公共交通を目指します。

基本方針②：輸送資源を最大限に活用した公共交通体系の維持・確保

本市では、鉄道、路線バス、デマンドバス、シャトルバス、タクシーの公共交通の他に、輸送資源として民間企業等が運行する送迎バスや福祉タクシーといった産業分野・福祉分野をサポートする様々な手段が存在します。

超高齢社会の到来により、将来にわたって安心して利用できる公共交通への需要が高まっているため、今ある輸送資源を最大限に活用することも視野に、市民・事業者・行政等の地域の関係者が連携及び協働することで公共交通体系を維持・確保していきます。

●目標

これまでに整理した課題の解決のために、本計画での**目標を設定**しました。

目標① 「誰もが安心して利用できる公共交通環境の整備」

- 高齢者や障害者等、誰もが安心して利用できる公共交通の利用環境の整備を行っていき、公共交通利用者の増加や利用満足度の改善を目指します。

目標② 「快適で利便性の高い公共交通への改善」

- 利用者にとって使いやすい公共交通サービスへの見直しや環境整備等を行っていき、デマンドバス予約のキャンセル数の削減や利用満足度の改善を目指します。

目標③ 「持続可能な公共交通体系の実現」

- 現在の公共交通を維持・確保していくため、デマンドバス・シャトルバスの認知度向上や、公共交通全体の収支率の維持・改善を目指します。

目標達成のための施策・事業と評価

<施策・事業>

安心して利用できる
環境の整備

- 公共交通の情報提供
- ノンステップバスの導入
- バス停留所の構造改良
- 児玉駅の駅前広場の利便性の向上

ニーズに合わせた
公共交通サービスの提供

- デマンドバスの運行日の見直し
- デマンドバスの運行形態の見直し
- デマンドバスの利用者登録制の導入
- デマンドバスの停留所の増設・移設
- シャトルバスの時刻表の定期的な見直し
- 路線バスの時刻表の定期的な見直し
- デマンドバスとタクシーの役割分担の明確化
- 民間企業サービスなどの公共交通以外の輸送資源との連携

ICTを活用した
公共交通サービスの導入

- デマンドバスの予約システムの改善
- ICカードの導入
- バスロケーションシステムの導入
- 新たなモビリティ技術の導入

利用促進策の実施

- デマンドバスの詳細パンフレットの作成
- 定期的な利用促進イベント・キャンペーンの実施
- 観光の移動手段としてデマンドバスを活用
- 運転免許返納者や高齢者等へのデマンドバス・シャトルバス試乗券の配布

事業期間 短期間(2~3年) 中期間(5年) 長期間(10年間)

<評価指標>

目標①

指標		現状値	目標値(R9年度)
指標① 公共交通の利用者数	鉄道※1	3,218,570人/年(R3年度)	3,218,570人/年
	路線バス	707,796人/年(R3年度)	751,300人/年
	デマンドバス	10,396人/年(R3年度)	11,000人/年
	シャトルバス	10,120人/年(R3年度)	10,700人/年
指標② 公共交通の利用可能人口	人口カバー率	97.2%(R2年度)	現状値以上

目標②

指標		現状値	目標値(R9年度)
指標③ 公共交通に対する満足度	鉄道	36.5%(R4年度)	53%
	路線バス	35.1%(R4年度)	55%
	デマンドバス	31.3%(R4年度)	51%
	シャトルバス	34.2%(R4年度)	52%
指標④ デマンドバスの予約不成立件数	予約不成立件数	1,000件/年(R3年度)	700件/年

目標③

指標		現状値	目標値(R9年度)
指標⑤ 公共交通の収支率(鉄道を除く)	路線バス※2	55.8%(R3年度)	現状値以上
	デマンドバス	5.8%※3	現状値以上
	シャトルバス	18.1%※3	現状値以上
指標⑥ シャトルバスの認知度	認知度	52.5%(R4年度)	66%

- ※1 鉄道の利用者数は本庄駅及び本庄早稲田駅のみ(児玉駅については令和3年3月13日から駅員無配属駅のため利用者数の公表はされていない)
- ※2 路線バスの収支率はデータのある朝日自動車(児玉折返し場線、神泉総合支所線)のみ
- ※3 集計期間は令和2年10月~令和3年9月までを指す

数値目標の達成状況の評価について

評価指標の達成状況を本庄市交通政策協議会でPDCAサイクルにより点検・評価します。評価指標が達成できそうにない場合は、要因を分析し、実施すべき事業の見直しを行います。評価のスケジュールについては、毎年確認が可能な指標の継続的な点検を実施しつつ、計画期間が終了する令和9年度に最終評価を行うこととします。

各公共交通の位置づけと役割分担

本市では、鉄道、路線バス、デマンドバス、シャトルバス、タクシーが運行しており、各々の特性に応じた役割を担っています。私たち利用者は、この役割を理解し、利用目的に応じて上手に使い分けることで、**公共交通をみんなで支えていく**ことが求められています。

表 各公共交通の位置づけと役割分担

位置づけ	系統	役割
広域幹線	JR高崎線、上越・北陸新幹線、JR八高線	地域の拠点と市外を結び、通勤・通学、買物、観光等の広域的な移動を担います。
地域間幹線	路線バス 伊勢崎線、寄居線、皆野町営バス	本市近隣市町を結び、通勤・通学、通院、買物等の移動を担います。
	路線バス 神泉総合支所線、児玉折返し場線	本庄地域と児玉地域又は近隣市町を結び、通勤・通学、通院、買物等の移動を担います。
地域内フィーダー	シャトルバス（乗合バス） （はにぼんシャトル）	本庄駅と本庄早稲田駅を結び、駅間移動、通勤、通院、買物、観光等の移動を担います。
	デマンドバス（区域運行） ・はにぼん号（本庄北、本庄南、児玉市街地） ・もといずみ号（児玉山間）	広域幹線・地域間幹線へのアクセス及び通学、通院、買物、観光等の日常生活における移動を担います。
個別輸送	タクシー	個別の移動ニーズに応じた柔軟で自由度の高い移動を担います。

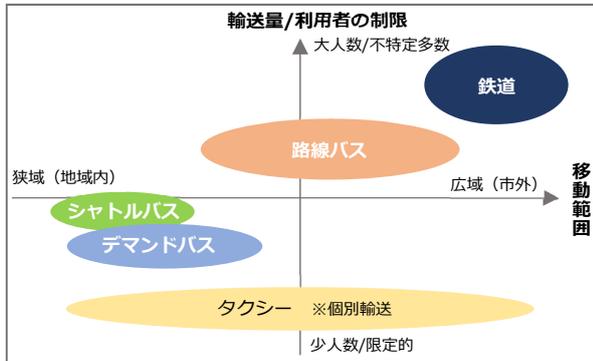


図 各公共交通機関の移動範囲と輸送量・利用者の制限による整理

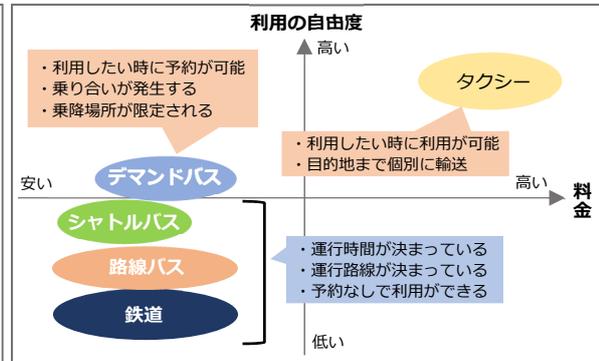


図 各公共交通機関の利便性と料金による整理

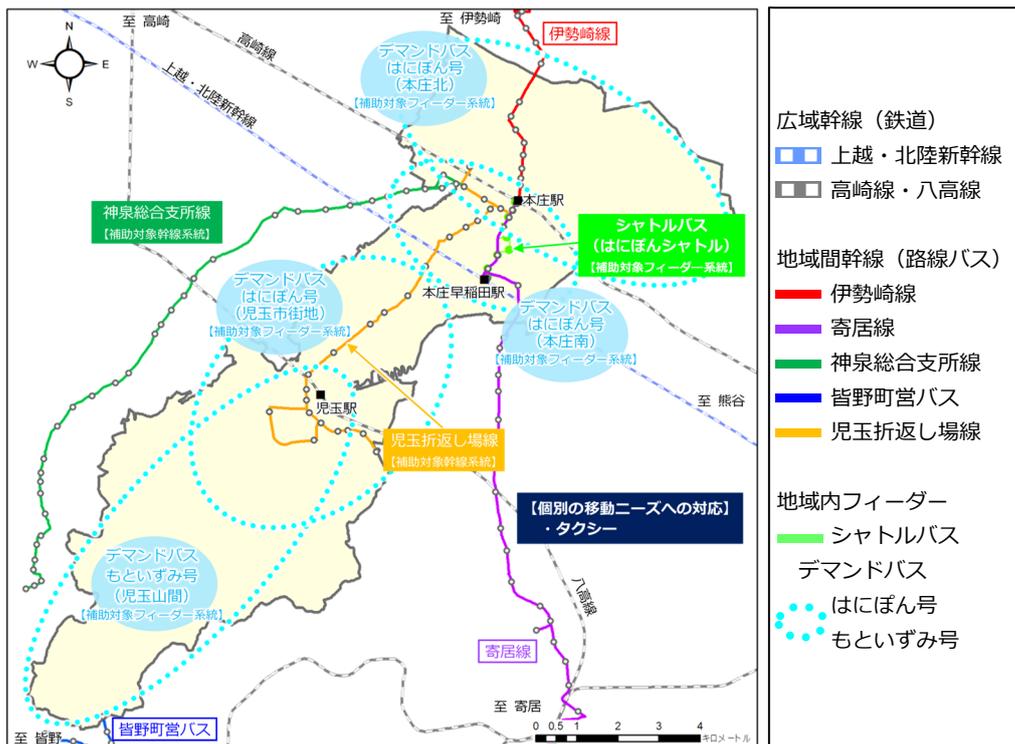


図 本庄市の地域公共交通